



●この説明書は、必ず取付けされる方にお渡しください。

■取付けされる方へのお願い

●本説明書で使われているマークには、以下のような意味があります。

▲注意 …取付けを誤った場合、使用者などが中程度の傷害・軽傷を負う危険または物的損害の発生が想定されます。冒頭にまとめて記載していますので必ずお読みください。

▲注意

- 建付け調整後本体・枠への固定ねじおよび丁番本体の止めねじが必ず締まっていることを確認してください。丁番固定ねじの締忘れ・ゆるみなどは、本体脱落の原因になります。
- 本体を吊込んだ後、本体側上丁番の軸を必ず下げて、本体が外れないことを確認してください。本体脱落の原因になります。

■取付け上のおお願い

- 納品時に各部材・部品を検品してください。万一製品に不具合があった場合は、必ず取付け前にお買い求め店までご連絡ください。(施工後の色調・不具合・キズなどによる交換はできません。)
- 運搬・加工の際は、キズがつかないように取扱ってください。
- 建具枠をコンクリートやモルタル(床面)に直付けしないでください。やむを得ず直付けする場合は、造作材・建具枠木口と床面の間に、必ず防水処理をしてください。
- 建具枠の下地材には、必ず乾燥材(含水率20%以下)を使用し、湿潤材は使用しないでください。
- 建具枠と柱・間柱・まぐさの間には必ずすき間をつくって納めてください。
- 建具枠と柱・間柱・まぐさのすき間には必ずかい木を入れてください。
- かい木には、合板などの乾燥材を使用し、湿潤材は使用しないでください。
- 建具枠のかい木には、必ず接着剤(現場手配)を併用してください。かい木を使用する場合は、かい木の両面に接着剤(現場手配)を塗布してください。
- 現場で使う接着剤は、「F☆☆☆☆」又はノンホルムタイプを使用してください。
- 壁内の通気が悪く、内部結露が発生するおそれがある場合は、防水処理をしてから施工してください。
- 本製品の組立て・施工時には、同梱の指定ねじを使用してください。他のねじを使用すると、部品・部材の脱落や、枠の垂下がり・ゆがみなどの原因となります。
- 本製品のねじ締付け時には、クラッチ付きドライバーを使用してください。締付けトルクが強すぎると、ねじが空転したり、ねじの頭がとんだり、つぶれたりする場合があります。
- 組立てねじは、縦枠とねじ頭が面一になるまで締込んでください。ただし、たたき込まないようにしてください。保持力低下の原因となります。
- 各部材のガイド穴にゴミが入らないようにしてください。
- 枠の組立て後、揺らす・ねじれ・引っ張りなど無理な力を加えないでください。破損する原因になります。
- 枠取付けの際は、水準器・下げ振りなどで水平・垂直を確認してください。
- 枠は倒れ、傾き、タイコ、ツヅミ、ねじれがないように取付けてください。
- 戸当りは、ハンマーなどで直接たたき込まないでください。
- 丁番取付け前に枠側・本体側羽根の刻印を見て、丁番の上下左右を確認してください。本体取付け時には、同じ刻印同士になるように、取付けてください。
- 丁番軸部にホコリ、木クズなどが付かないよう注意してください。音鳴りの原因になります。
- 丁番は指定のねじで締付け、ガタツキのないように固定してください。調整後ガタツキがないことを確認してください。
- ケーシング等が干渉し、本体が取付けられない場合は丁番を本体側に取付けた状態で枠に丁番をねじ固定してください。
- 本体は落下させたり、立てかけるときに衝撃を与えないでください。本体部品が損傷し、開閉に支障をきたす原因になります。
- 取付け時の建具養生などは、ダンボール、ミラーマットなどを使用し、テープを建具表面に直貼りしないでください。テープを建具表面に貼ると、表面シートを傷めたり、またテープそのものの粘着剤が表面に付着したまま残ることがあります。
- フリクションステーに潤滑剤、洗剤を塗布しないでください。トルクがなくなり、任意位置での固定ができなくなります。

■本体保管上のおお願い

- 本体のソリ・ねじれ防止のため、下記場所に置いたり、保管しないでください。
・直射日光の当たる場所 ・昼夜などで温度差の激しい場所 ・湿気の多い場所
- 本体を長期間保管する場合は、寝かせた状態で保管してください。立て置きでの保管はソリ・ねじれなどの原因になります。
- ※建築工事中は、本体を養生・保全のため取外しておき、取付け完了後に吊込むことをおすすめします。

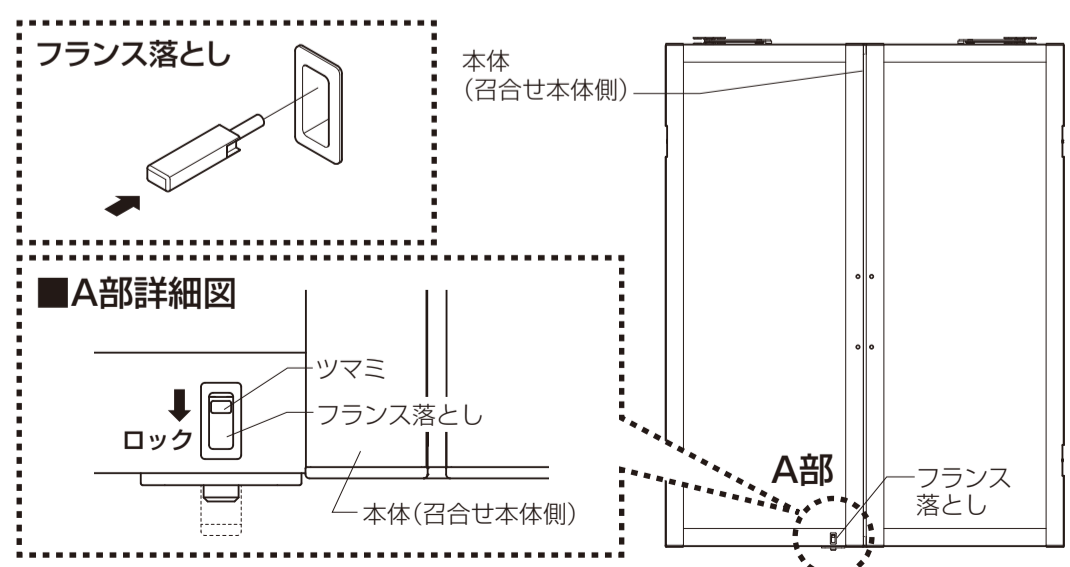
■本体の開閉操作上のおお願い

■フランス落としの使用方法

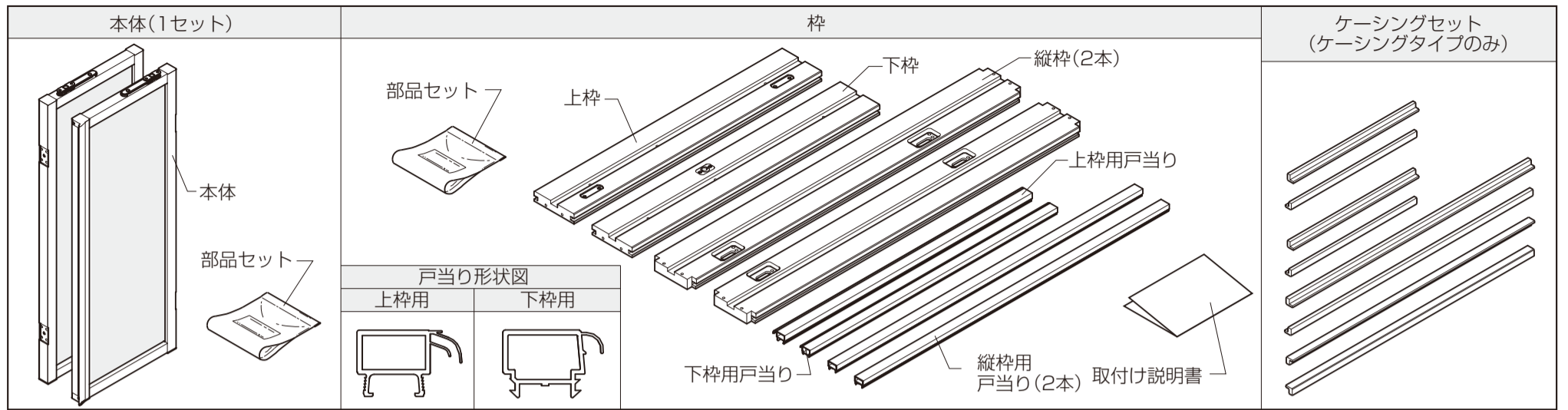
- 扉を閉めた状態で任意の位置でツマミを下げると、ロックがかかり本体が開かなくなります。
- ※フランス落としは簡易固定用です。ぶつかったりすると本体が開くことがあります。
- ※ツマミはメンテナンスのため取り外しができる構造になっています。ツマミが外れた場合は、前方から差し込んでください。

●お願い

- ※扉を閉めたときは、フランス落としでロックしてください。ロックしないと、強風などで扉が開くことがあります。



■部品・部材の明細



■枠セット明細

	員数
縦 枠	2
上 枠	1
下 枠	1
部品セット	1
取付け説明書	1
戸当り	縦2・上1・下1

■丁番セット明細(別売り)

本体側丁番(右上)	1
本体側丁番(左上)	1
本体側丁番(右下)	1
本体側丁番(左下)	1
枠側丁番(右上)	1
枠側丁番(左上)	1
枠側丁番(右下)	1
枠側丁番(左下)	1
ブラケットカバー	4
枠側丁番取付けねじ(トラス小ねじ)M4×10	16
本体側丁番取付けねじ(皿小ねじ)M4×20	16
取付け説明書	1

■把手セット明細(別売り)

把手	1
カバー	2
固定ねじ(皿小ねじ)M4×14	2

※把手セットは2セット発注してください。

■部品セット明細(枠セット用)

組立用皿小ねじM4×50	8
躯体取付用DNビス(皿木ねじ)φ3.8×50	10
木口シール(NC枠用)	4
木口シール(C付枠用)	4

■ケーシングセット明細

縦用ケーシング	4
横用ケーシング	4

■本体セット明細

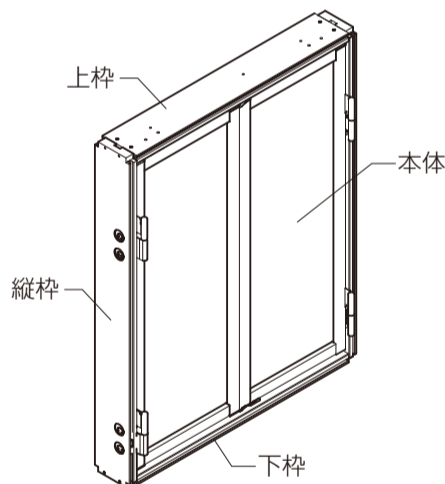
本体	2
部品セット	1

■取付け範囲

(単位: mm)

	ケーシングタイプ		ノンケーシングタイプ		
	薄壁用	厚壁用	NC156	NC171	NC180
対象壁厚	111~152	142~182	116~130	131~145	146~160

■構成図

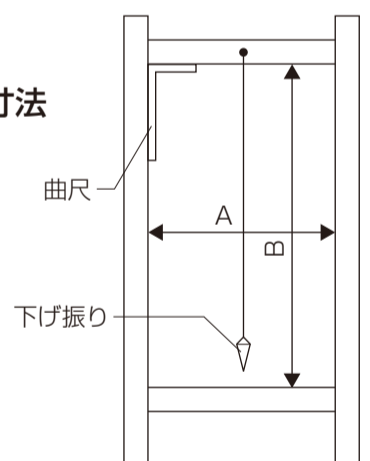


■開口部の作り方

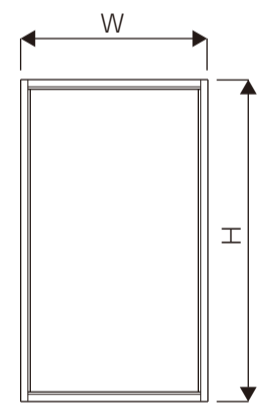
※開口部の水平・垂直を正しく出してください。

開口寸法A	製品寸法W+5mm
開口寸法B	製品寸法H+5mm

●開口寸法



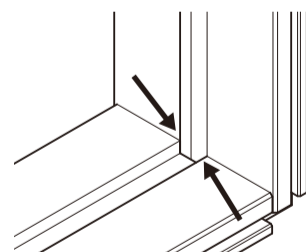
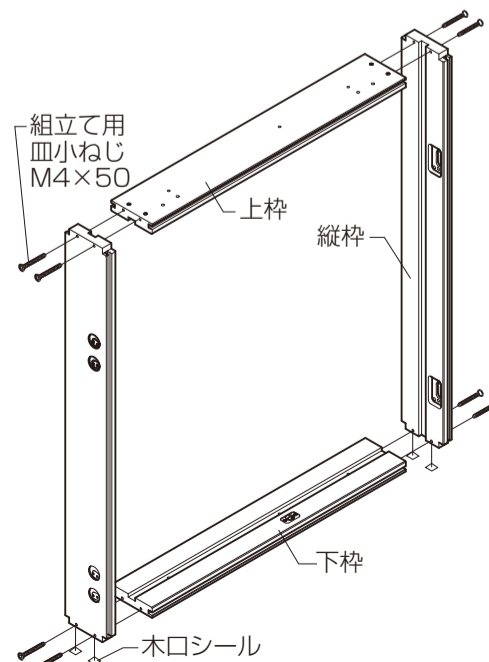
●製品寸法



■取付け順序

1 枠の組立て

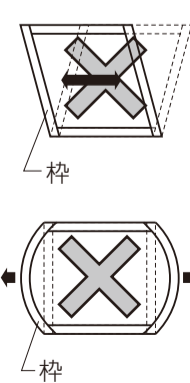
●縦枠下端部に木口シールを貼り、下図のように各部材を組合せ、同梱のねじで固定します。



縦枠と上下枠の戸当り取付け用の溝位置を合わせて枠の組立てをしてください。本体と戸当りのすき間がばらついてしまいます。

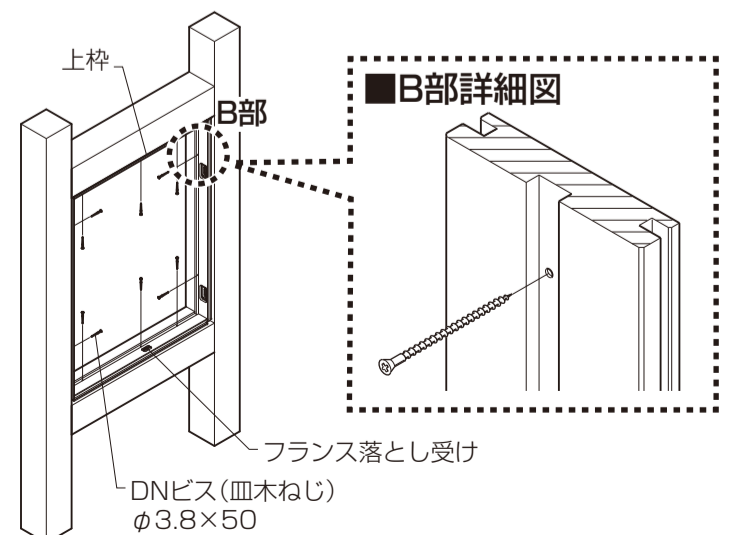
お願い

- ※組立てねじは、縦枠とねじ頭が面一になるまで締込んでください。
- ※ガイド穴にゴミなどが入らないようにしてください。
- ※枠組立て後、揺らす・引っ張るなどの無理な力を加えないでください。破損の原因になります。
- ※ねじは、たたき込まないようにしてください。保持力低下などの原因となります。



2 枠の取付け

- ①枠の取付けは同梱のねじ(DNビスφ3.8×50)で取付けてください。
 - ②枠を開口部に固定します。
 - ③上枠とまぐさ、縦枠と柱のすき間にかい木を入れ、本固定します。
- ※フランス落とし受けが取付けされている方を下にして開口部に固定してください。



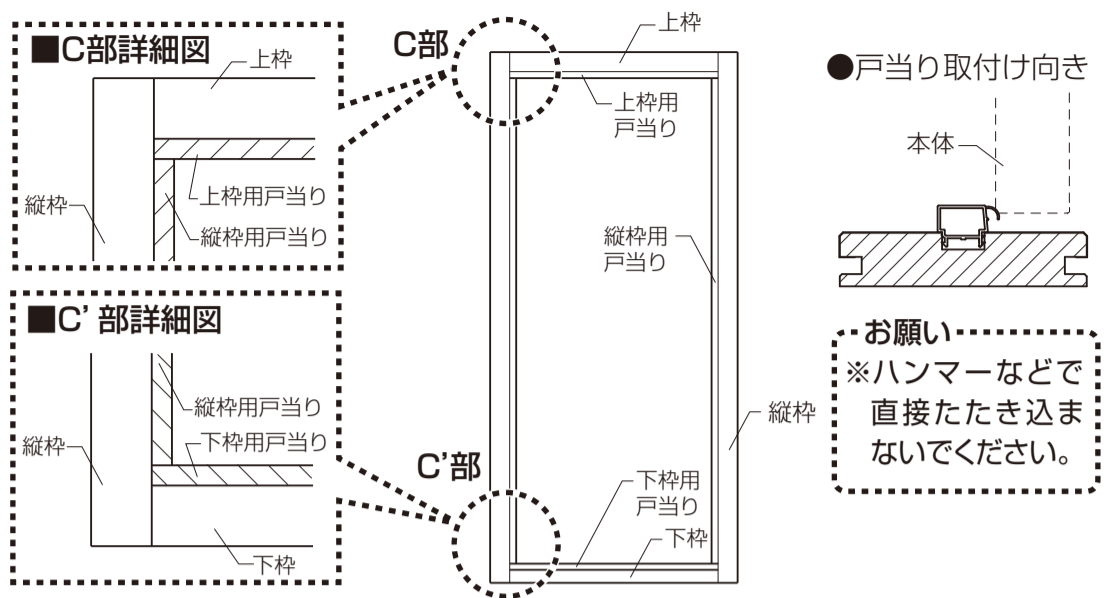
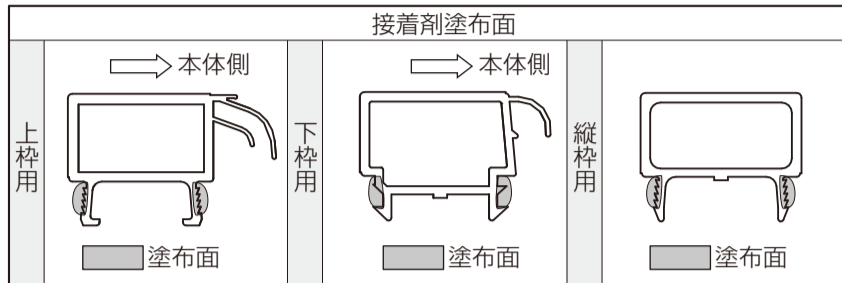
3 戸当りの取付け

●戸当りの足の外側(リブのある面)に接着剤(現場手配)を付け、固定してください。

接着剤(現場手配)がはみ出した場合は必ず拭き取ってください。
※上枠用→下枠用→縦枠用の順に取付けてください。

戸当り長さ

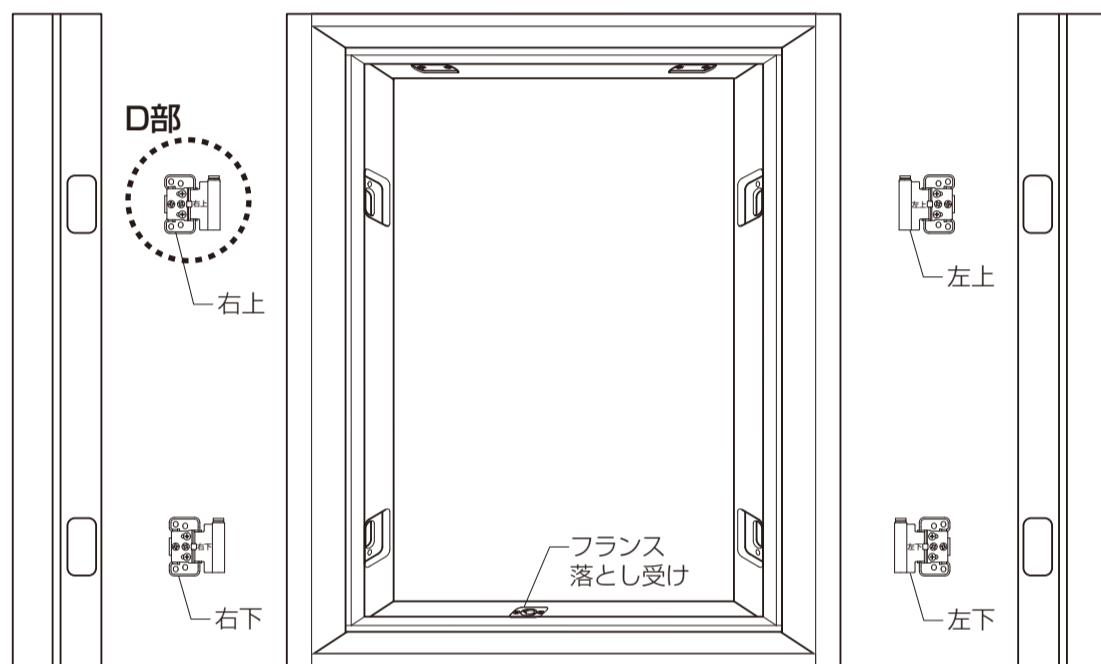
縦枠用：L848.5 上下枠用：L685.5



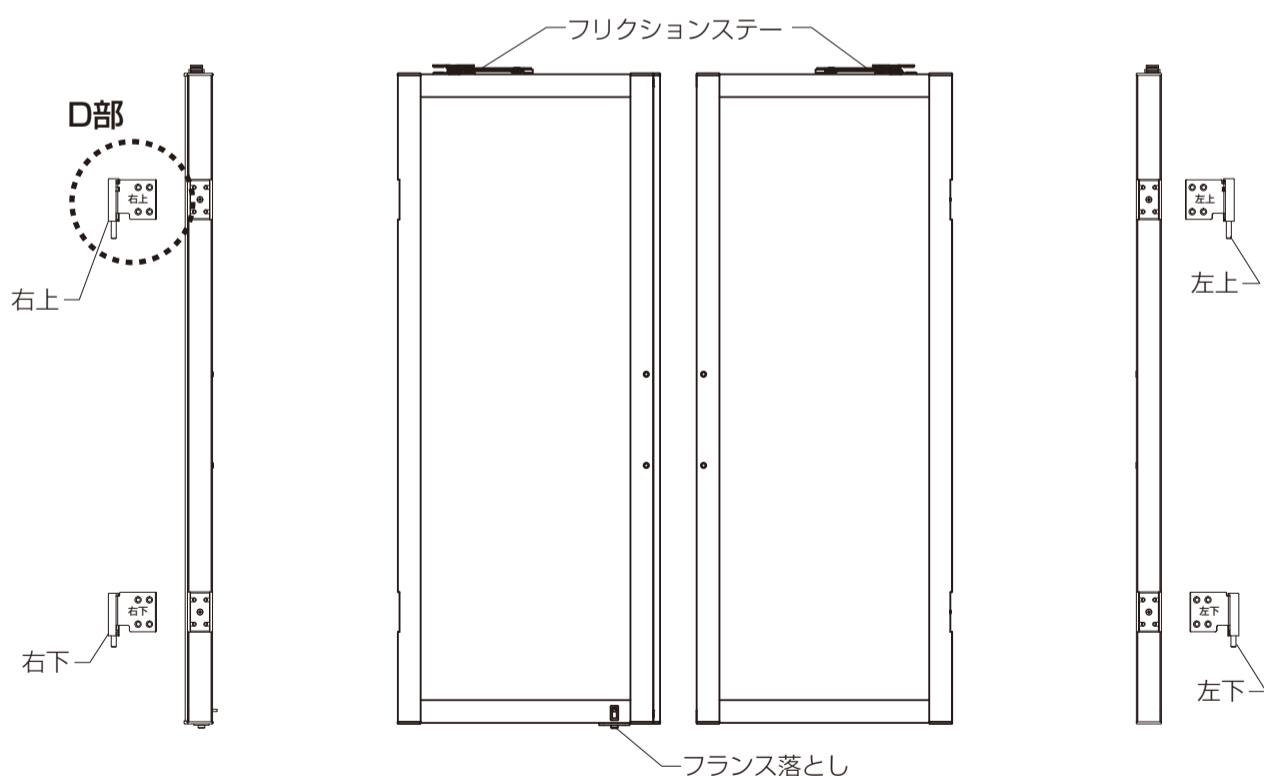
4 窓本体の取付け

※取付ける前に丁番の位置を確認してください。

枠

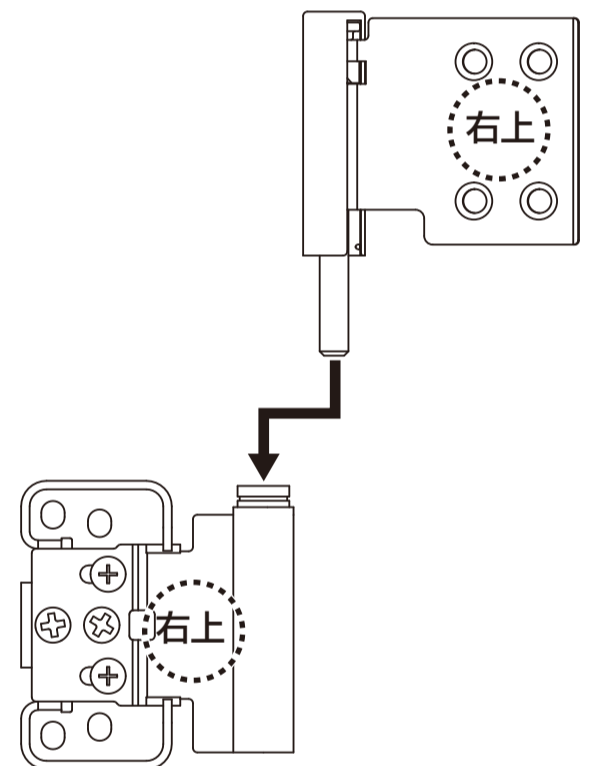


本体



D部詳細図

※丁番には枠側・本体側それぞれに刻印がされています。本体取付け時には同じ刻印同士になるように取付けてください。

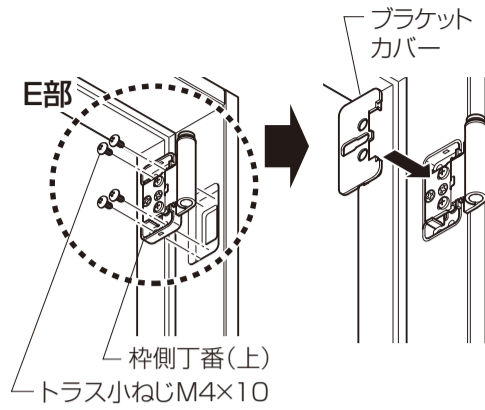


▲ 注意

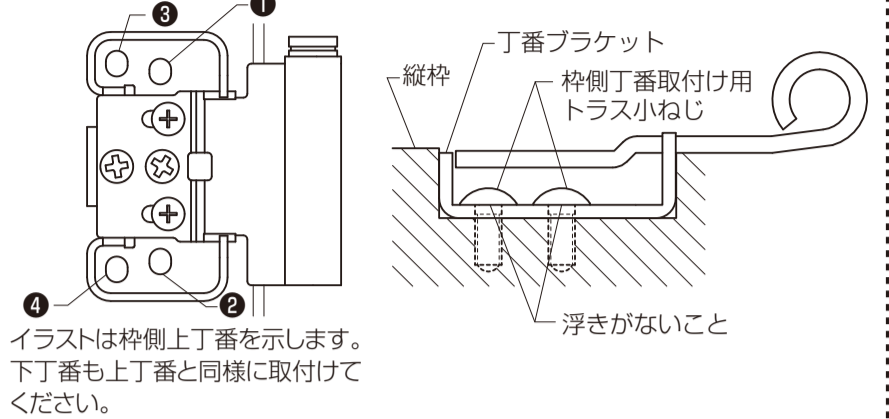
- 建付け調整後本体・枠への固定ねじおよび丁番本体の止めねじが必ず締まっていることを確認してください。丁番固定ねじの締忘れ・ゆるみなどは、本体脱落の原因になります。
- 本体を吊込んだ後、本体側上丁番の軸を必ず下げて、本体が外れないことを確認してください。本体脱落の原因になります。

1 枠側丁番の取付け

- ①縦枠に、枠側丁番を付属のトラス小ねじ M4×10で取付けます。(E部)
※枠側丁番のねじを取付ける際は、①～④の順に、ねじが丁番ブラケット面に当たるまで確実に締込んでください。①～④の順に取付けをおこなわないと、丁番傾きの原因となり、取付け後に本体がガタつくおそれがあります。
- ②ブラケットカバーを「パチッ」と音がするまでしっかりはめ込みます。



■E部詳細図

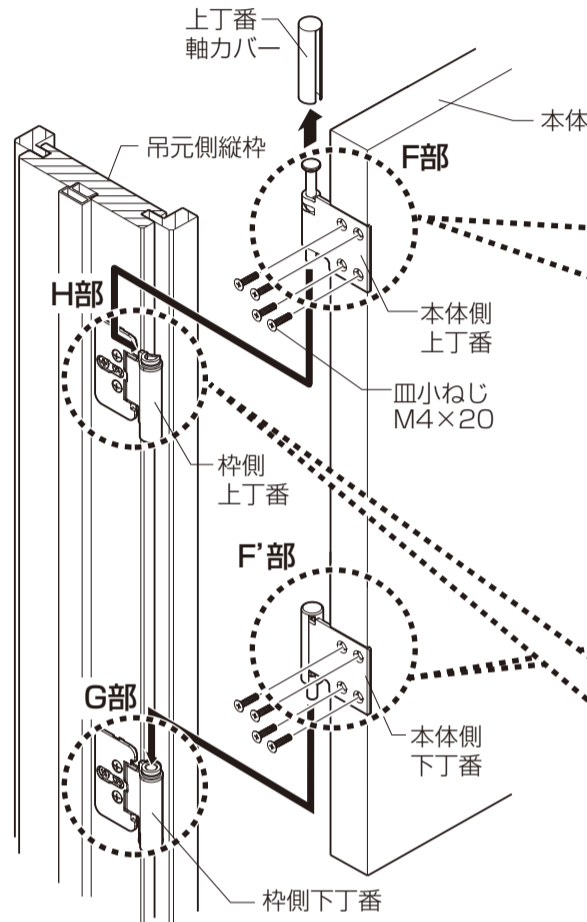


2 本体側丁番の取付け

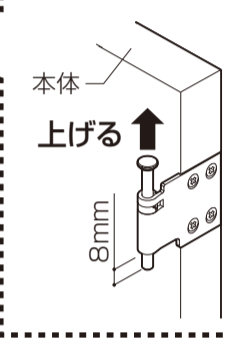
- ①本体に、本体側丁番を皿小ねじM4×20(丁番にテープ留め)で取付けます。(F・F'部)
取付けの際は、本体の上下を確認してください。

3 本体の取付け

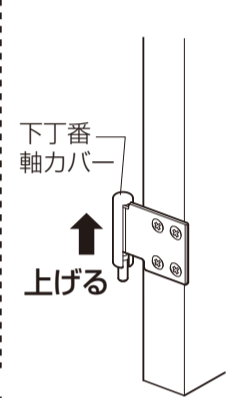
- ①下丁番軸カバーを上げます。(F部)
- ②上丁番軸カバーを外してください。(F部)
- ③本体側上丁番の軸を止まるまで上げます。(F部)
※軸は8mmほど残した位置で止まります。
- ④本体側下丁番を枠側下丁番に差込みます。(G部)
※本体側下丁番の軸を垂直に差込んでください。
- ⑤本体側上丁番の軸を枠側上丁番のU字型溝にはめ込み、本体を吊込みます。(H部)
- ⑥本体側上丁番軸を止まるまで下げてください。(I図)
- ⑦上丁番軸カバーを取付けます。
※枠側上丁番のケースカバー溝にはめ込んでください。
- ⑧下丁番軸カバーを下げます。
※枠側下丁番のケースカバー溝にはめ込んでください。
- ⑨本体側上丁番の軸が下がっていることを確認してください。



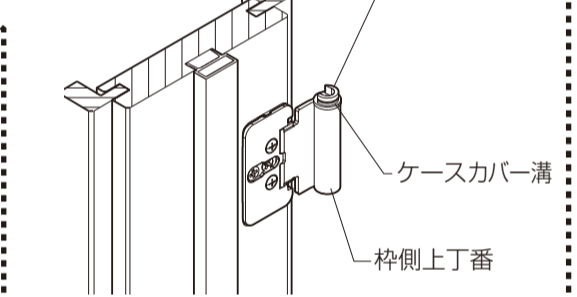
■F部詳細図



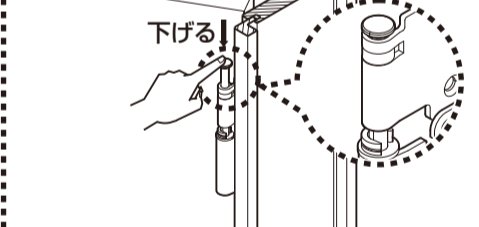
■F'部詳細図



■H部詳細図



■I図

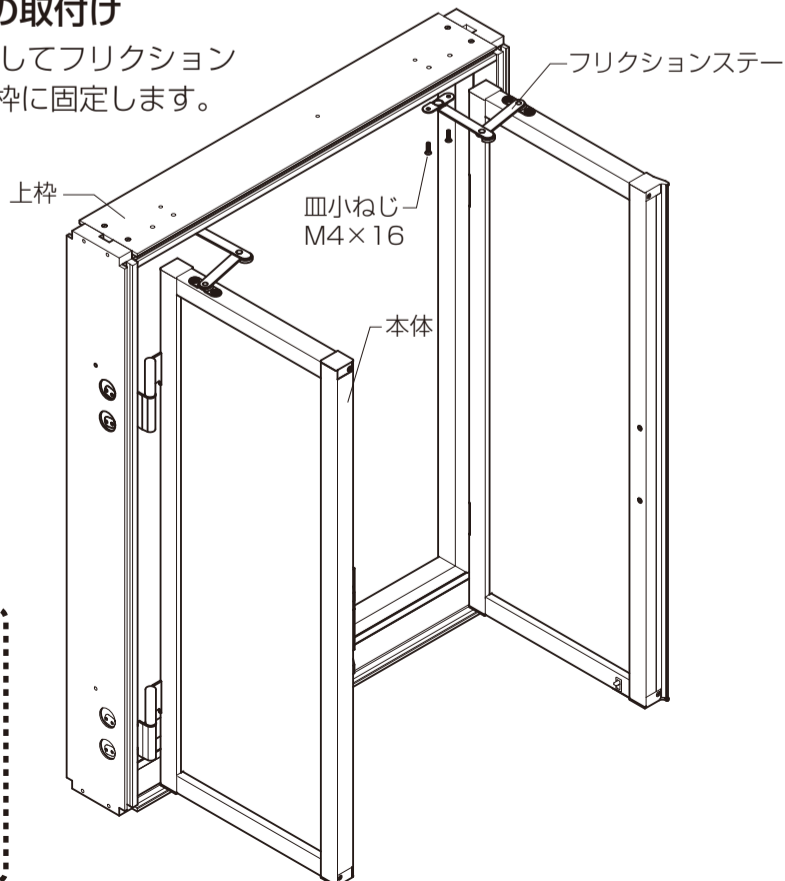


お願い

- ※本体を保管する際は、下記の状況にあたる場所には置かないでください。
・直射日光の当たる場所 ・昼夜などで温度差の激しい場所 ・湿気が多い場所
本体のソリ・ねじれなどの原因になります。
- ※長期にわたる本体の立て置き保管はせずに、寝かせた状態での保管としてください。本体のソリ・ねじれなどの原因になります。
- ※ケーシング等が干渉し、本体が取付けられない場合は丁番を本体側に取付けた状態で枠に丁番をねじ固定してください。
- ※丁番軸部にホコリ、木クズなどが付かないよう注意してください。音鳴りの原因になります。

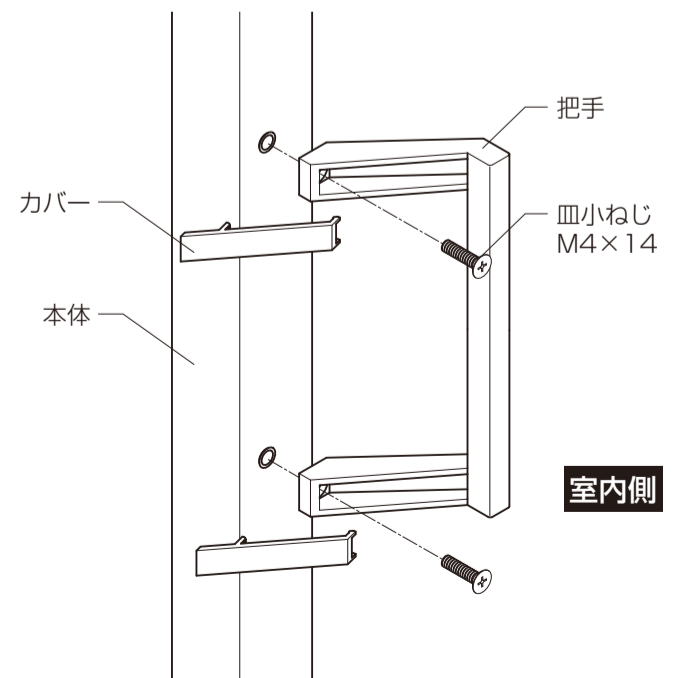
5 フリクションステーの取付け

- ①手回しドライバーを使用してフリクションステーを同梱のねじで上枠に固定します。



6 把手の取付け

- ①手回しドライバーを使用して把手を同梱のねじで固定し、カバーでふたをします。

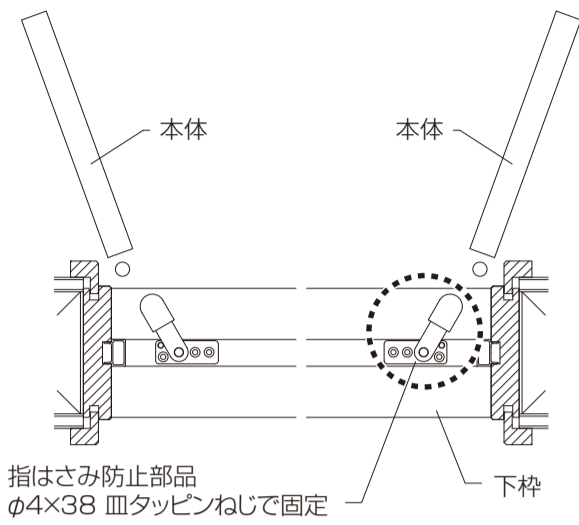


お願い

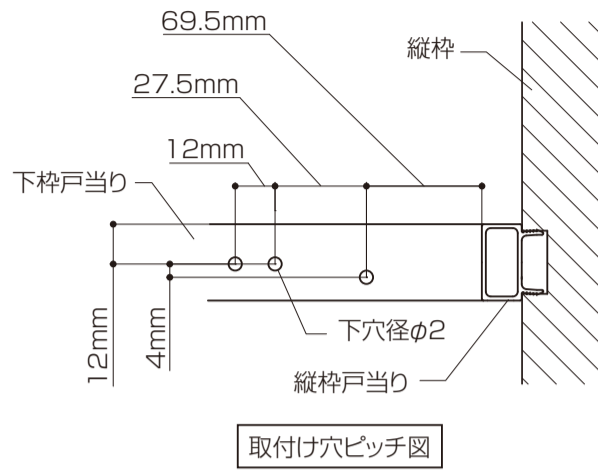
- ※フリクションステーに潤滑剤や洗剤を塗布しないでください。トルクがなくなり、任意位置での固定ができなくなります。

7 指はさみ防止部品の取付け(オプション)

①下枠戸当りに指はさみ防止部品の下穴(φ2)を開口します。(3カ所)

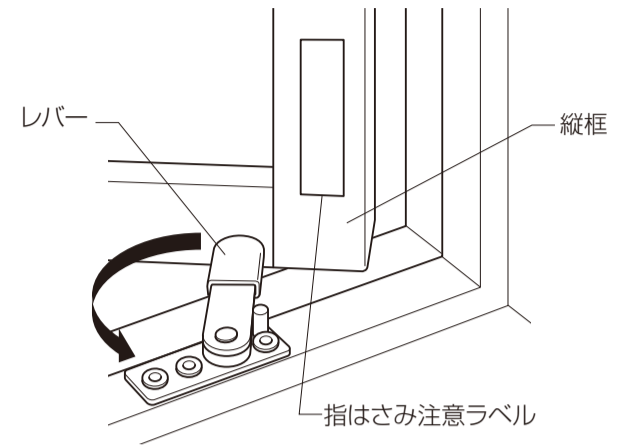


※反対側は対称位置に開口します。



②指はさみ防止部品をねじで固定します。

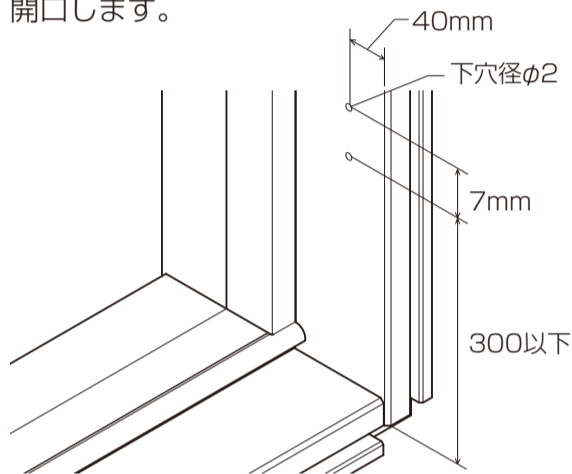
③指はさみ注意ラベルを本体の縦枠に貼付けます。



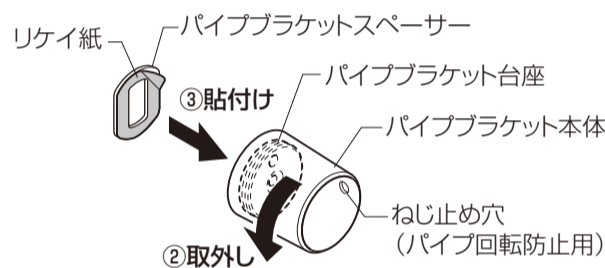
※レバーを手前に引くことで、扉を閉めることができます。

8 落下防止バーの取付け(オプション)

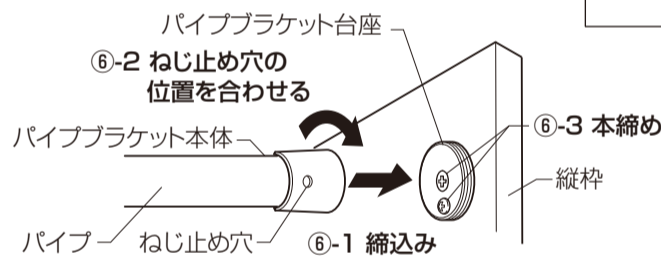
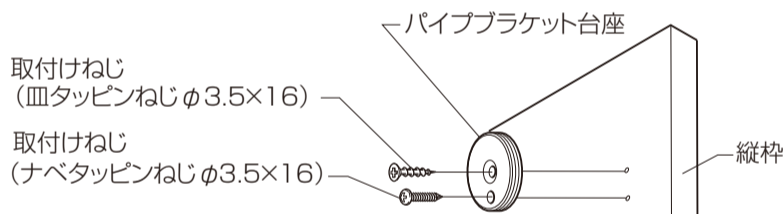
①パイプブラケット取付位置に下穴(φ2)を開口します。



- ②パイプブラケット本体を回転させ、パイプブラケット台座を外します。
 - ③パイプブラケットスペーサーのリケイ紙をはがし、パイプブラケット台座の裏面に貼付けます。
 - ④パイプブラケット台座を縦枠の下穴に合わせ、取付けねじで固定します。
- ※パイプブラケット台座中央の皿穴は皿タップピンねじφ3.5×16、もう一方の穴はナベタップピンねじφ3.5×16で固定してください。
- ⑤パイプを開口寸法に合わせて切断します。
 - ⑥パイプブラケットにパイプを通し、パイプブラケット台座に取付けます。
 - ⑦ドリルねじでパイプを固定します。



■パイプカット寸法 = 開口寸法 - 16mm



9 ケーシングの取付け

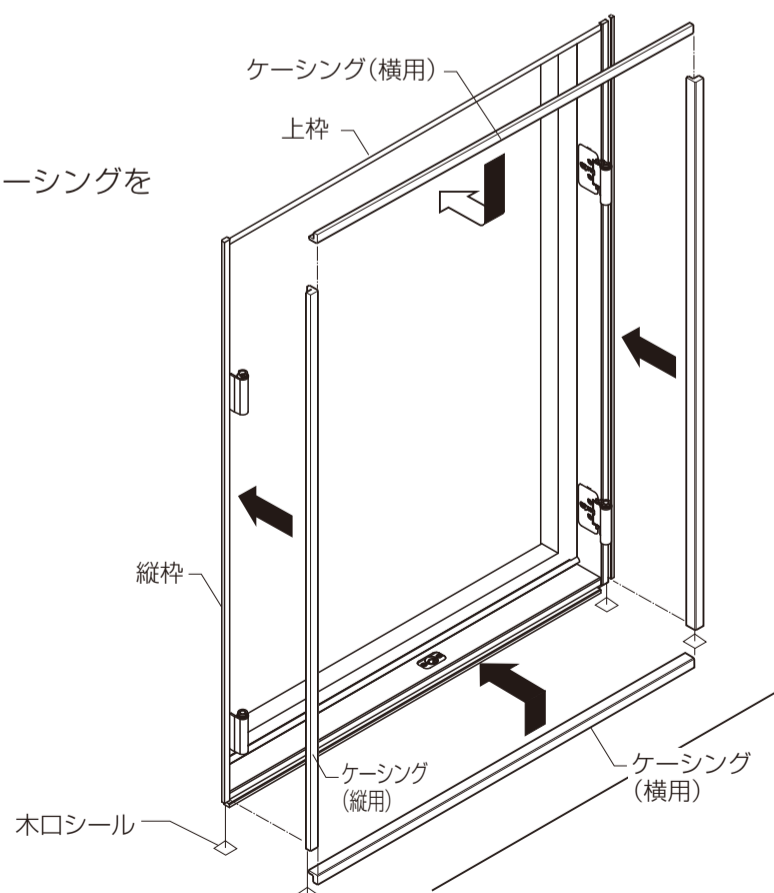
※壁材を仕上げしてからケーシングを取付けてください。

①別梱のケーシングを現場寸法に合わせて切断します。

②枠のケーシング溝へケーシングを差込みます。

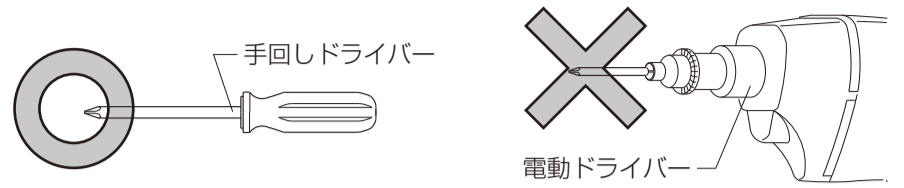
③ケーシング溝とケーシング裏面に接着剤(現場手配)を塗布し、ケーシングを固定します。

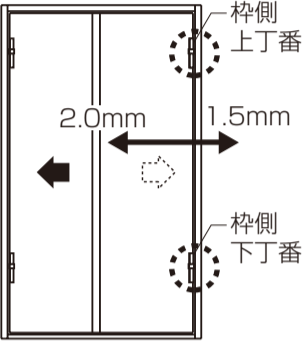
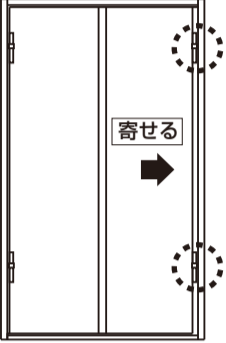
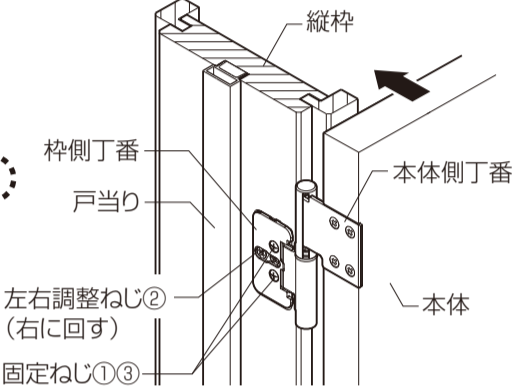

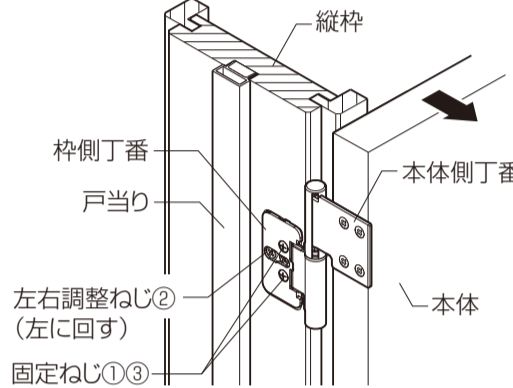
※仮止めする場合は、専用かくし釘をご使用ください。

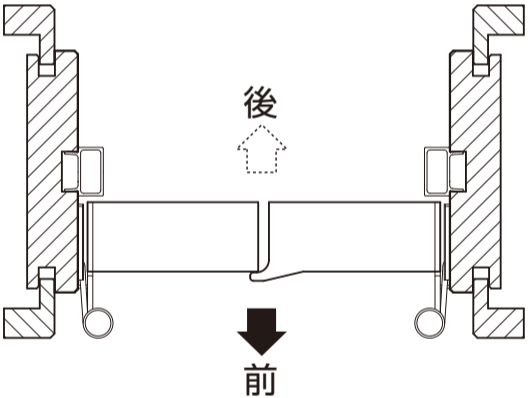
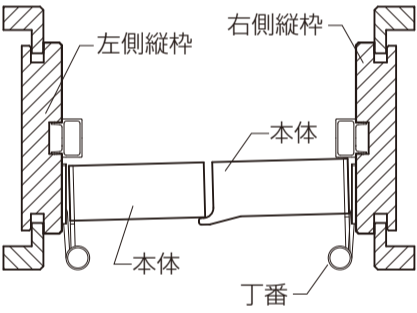
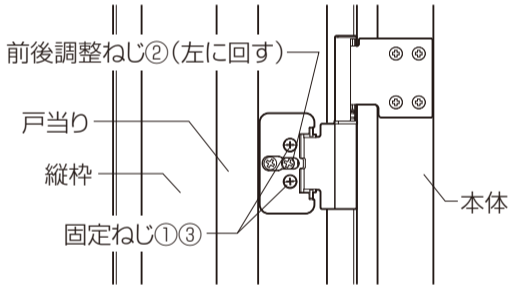
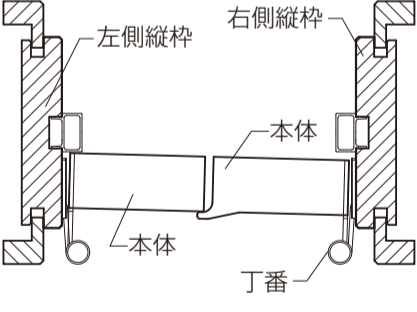
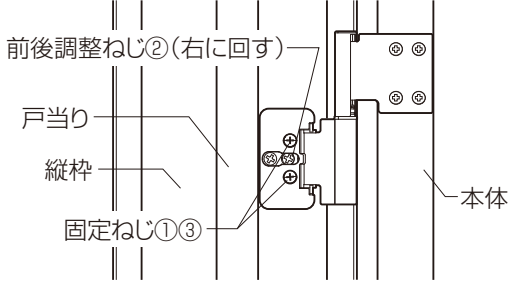


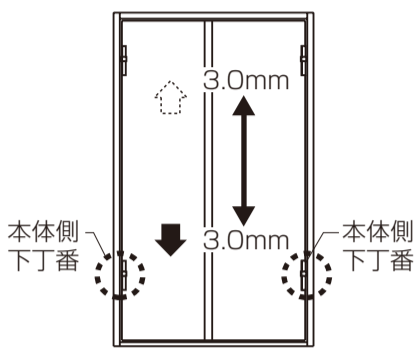
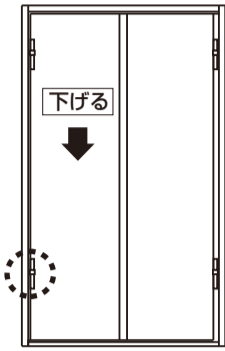
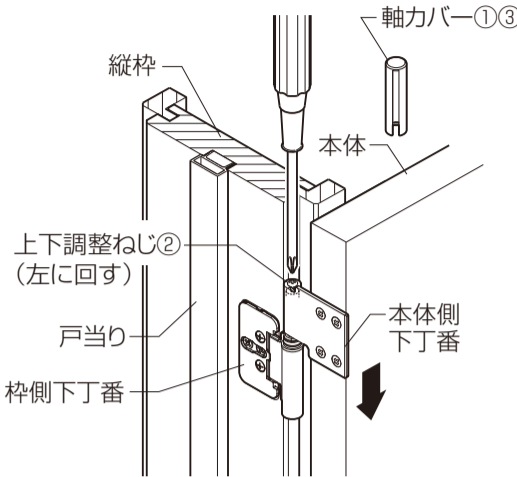
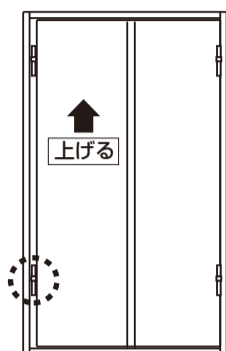
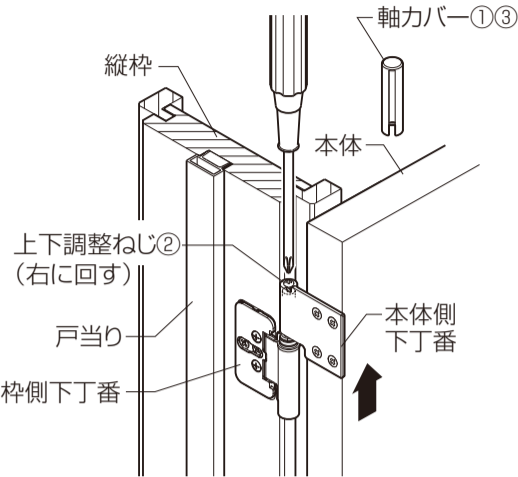
■建付け調整(丁番による調整)

※建付け調整は必ず手回しドライバーを使用してください。
 ※電動ドライバーは使用しないでください。ねじ頭が壊れるおそれがあります。

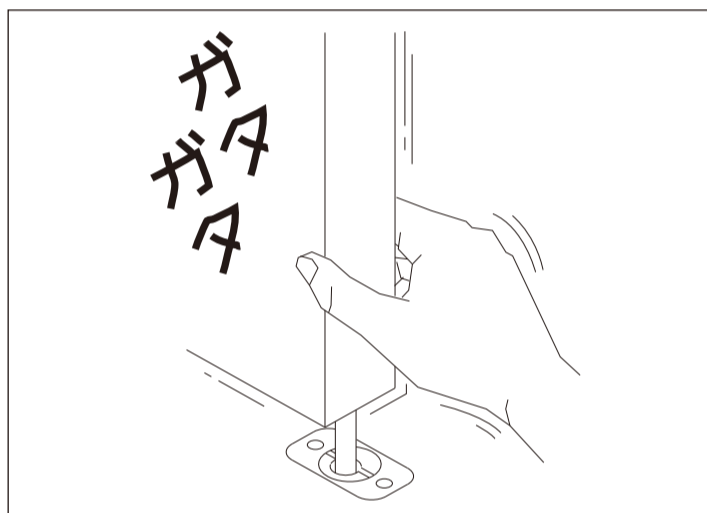


左右の調整	不具合例	調整方法	不具合例	調整方法
<p>● 枠側上丁番および枠側下丁番の両方で調整します。</p> <p>● 調整幅は、吊元側に1.5mm、戸先側に2.0mmです。</p> 	<p>1. 本体同士が当たる。</p> 	<p>① 固定ねじをゆるめる。 ② 左右調整ねじを右に回して本体を吊元側に移動し位置を決める。 ③ 固定ねじを締める。 ④ 固定ねじが必ず閉まっていることを確認してください。</p> 	<p>2. 召合せのすき間が大きい。</p> 	<p>① 固定ねじをゆるめる。 ② 左右調整ねじを左に回して本体を開き側に移動し位置を決める。 ③ 固定ねじを締める。 ④ 固定ねじが必ず閉まっていることを確認してください。</p> 

前後の調整	不具合例	調整方法(右側縦枠の丁番を調整する場合)
<p>● 枠側上丁番および枠側下丁番の両方で調整します。</p> <p>● 調整幅は、後側に1.0mm、前側に4.0mmです。</p> 	<p>1. 左側の枠が前に出ている。</p> 	<p>① 固定ねじをゆるめる。 ② 前後調整ねじを左に回して本体を前に移動させる。 ③ 固定ねじを締める。 ④ 固定ねじが必ず閉まっていることを確認してください。</p> 
	<p>2. 右側の枠が前に出ている。</p> 	<p>調整方法(右側縦枠の丁番を調整する場合)</p> <p>① 固定ねじをゆるめる。 ② 前後調整ねじを右に回して本体を後に移動させる。 ③ 固定ねじを締める。 ④ 固定ねじが必ず閉まっていることを確認してください。</p> 

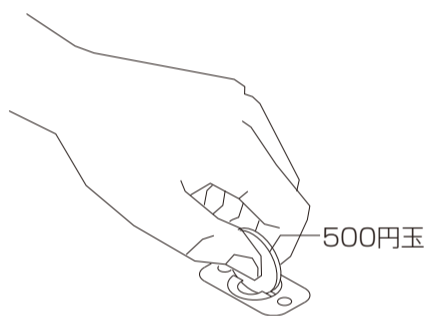
上下の調整	不具合例	調整方法	不具合例	調整方法
<p>●本体側下丁番で調整します。</p> <p>●調整幅は、上側に3.0mm、下側に3.0mmです。</p> <p>※調整時には、上枠とフリクションステーが干渉しないようにしてください。</p> <p>※調整後にはフランス落としのツマミを下げ、ロックがかかることを確認してください。</p> 	<p>1.左側の本体が高い。</p> 	<p>①本体側下丁番の軸カバーを外す。</p> <p>②上下調整ねじを左に回し、本体を下げて位置を決める。</p> <p>③軸カバーをはめる。</p> 	<p>2.左側の本体が低い。</p> 	<p>①本体側下丁番の軸カバーを外す。</p> <p>②上下調整ねじを右に回し、本体を上げて位置を決める。</p> <p>③軸カバーをはめる。</p> 

■扉のガタツキ調整(フランス落とし受けによる調整)

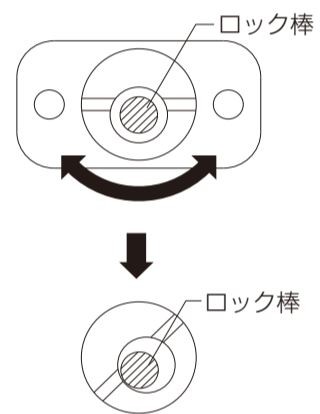


■扉がガタつく

- ①コインなどで穴部分を回転させ、ロック棒をフランス落とし受けの内側に当てるようにしてください。



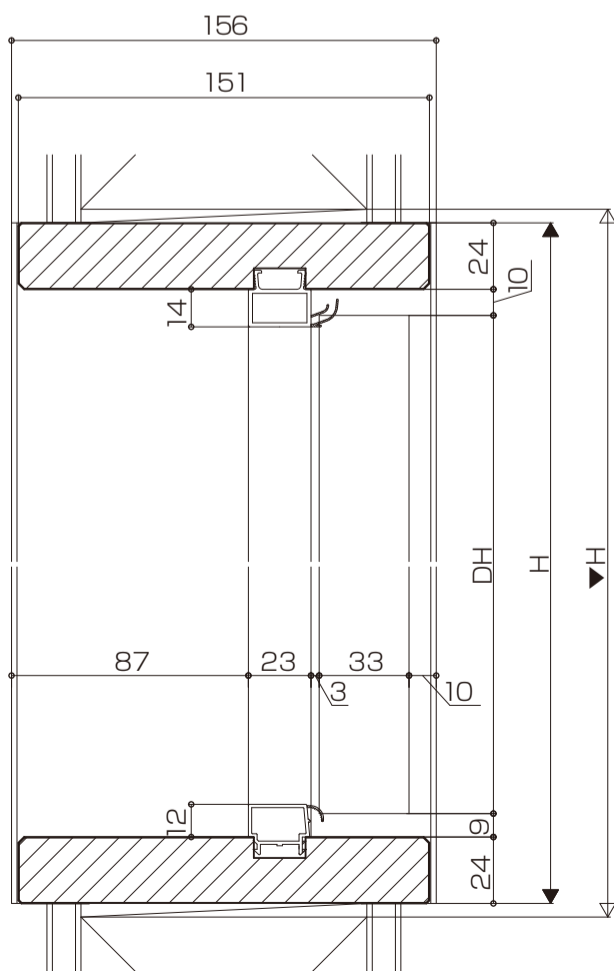
【フランス落とし受け】



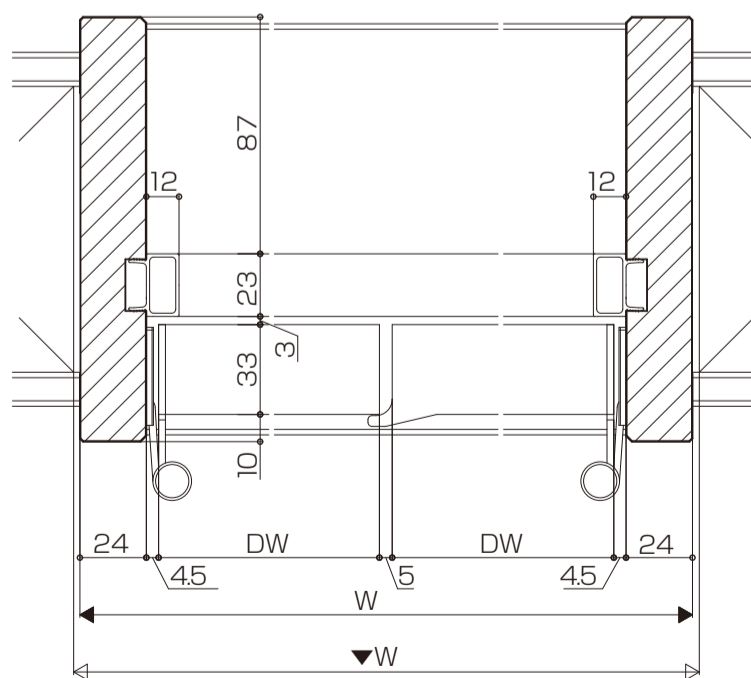
■納まり図

■ノンケーシングタイプ

●縦断面図



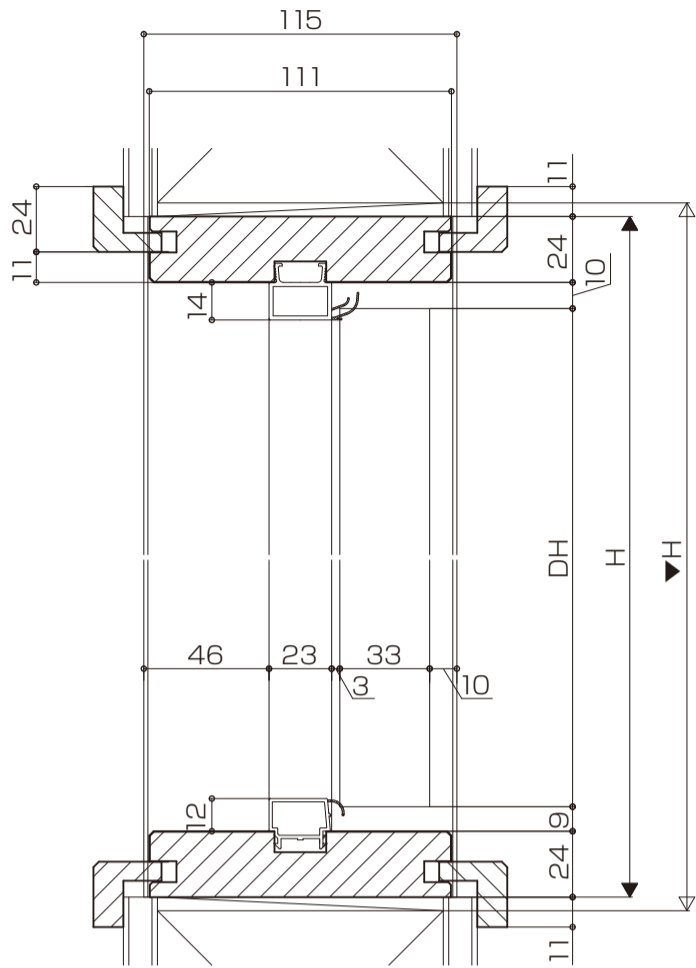
●横断面図



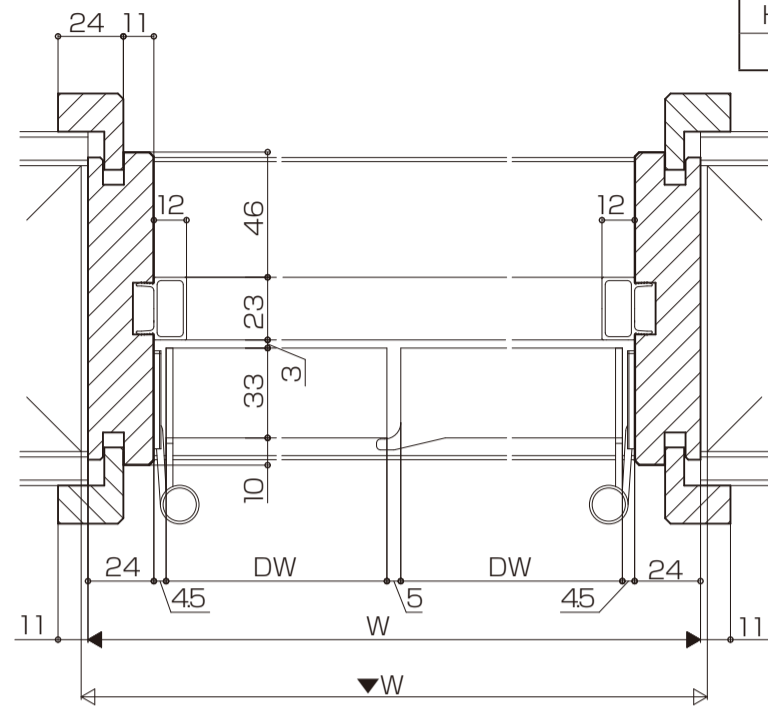
W呼称	W	DW
07	734	336
H呼称	H	DH
09	923	856

■ケーシングタイプ

●縦断面図



●横断面図



W呼称	W	DW
07	734	336

H呼称	H	DH
09	923	856